

書きあてい

和道は長い丁史を土台にして書いています。
・決して天から降つた者ども、地から湧いて
来た者どももないというところで。その丁史を
知らぬいことは、自分の生い立ちを知らぬい
ことになり、やがて将来への判断をあらゆる
ことになりましよう。いまこそ、現世に立つ
て自分の過去を知り、未来への設計をたて、
いまかと思ひます。